

小規模企業景気動向調査

[2022年1月期調査]

～感染拡大の影響で、コロナ禍本格化後最大の悪化となった小規模企業景況～

2022年2月28日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2022年1月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…感染拡大の影響で、コロナ禍本格化後最大の悪化となった小規模企業景況…◇

1月期の小規模企業の業況DIは、全DIが大幅な悪化となり、特に、売上額・業況DIは、コロナ禍が本格化した2020年3月記の悪化幅に迫る20pt超となった。情報連絡員からは経済全体が上向きになり始めた段階で、第6波の拡大により、急激に需要が減退する結果となったことで、事業者の経営体力や経営者の経営意欲が尽きて廃業に追い込まれる事業者が増加する懸念があるとのコメントがあった。また、急激な経済の冷え込みに対応するよう消費喚起事業や景気対策等を考案していく必要があると声も見られた。

<製造業> ◇…回復基調から一転し、大幅悪化に転落した製造業…◇

製造業は、全DIが10pt超の大幅悪化となった。食料品関連は外出自粛の恩恵を受け、通販向け需要が好調な一方で、飲食店向け需要は、まん延防止等重点措置による休業や時短に伴って、低調傾向にある。また、原材料価格の高止まりが継続し続ける中、なかなか価格転嫁できないことから、採算・資金繰りが圧迫されているとのコメントがあった。機械金属関連は、材料単価が高騰しつつも、仕入状況は回復傾向にあったが、ここに来てまた仕入れの流れが悪くなっているという声があった。

<建設業> ◇…需要の停滞、資材・原材料等の高騰及び不足、人手不足等に苦しむ建設業…◇

建設業は、全DIが10pt超の大幅悪化となった。一部では、木材や鉄材の仕入価格が上昇し、また、従業員の確保に苦慮しているが、売上は増加傾向にあるとのコメントがあった。また、災害関連需要も引き続き堅調である。ただし、感染拡大による需要の低迷、資材不足による機会損失などで、全体的には売上は減少しており、加えて、一部地域では燃料費高騰や積雪の影響から工期遅れや採算の悪化が見られるなど、厳しい状況となっている。

<小売業> ◇…感染拡大や需要低迷に苦しみ、大幅な悪化に転じた小売業…◇

小売業では、全DIが10pt超の大幅悪化に転じた。衣類品関連では、コロナ禍の外出自粛が定着し、需要の低迷が続く、小売りのみならず業界全体が落ち込んでいる。食料品関連は、消費者向けは、巣ごもり需要で堅調を維持しているものの、一方で事業者向けの需要が急減し、厳しい状況に逆戻りとなった。自動車販売関連では、新車の納車が滞った結果、中古車市場が活発となるも、今度は価格が高騰し需要が停滞している。燃料販売は、対事業者には安定傾向にあるが、対個人では原油高の影響で消費が急激に減少し、利益の確保に苦慮しているとの声もあった。

<サービス業> ◇…感染拡大や原油高の影響で、記録的な大幅悪化となったサービス業…◇

サービス業は、売上額DIが40ptに迫る記録的悪化となるなど、全DIが25pt超の大幅悪化となった。宿泊関連では、消費喚起策により、年末年始の客足が多く宴会等の予約も徐々に増えたこともあり、業況は好転に向かっていたが、オミクロン株が大流行しキャンセルが相次ぎ売上が大きく減少した。理美容関連事業でも、感染者拡大により客足が低調になった。洗濯関連事業では、原油高の影響が続いており、経営が大きく圧迫されているとのコメントが目立った。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
売上額	▲ 6.6	▲ 28.6	▲ 22.0	▲ 3.3	▲ 20.9	▲ 17.6	▲ 9.0	▲ 18.5	▲ 9.5
採算	▲ 32.9	▲ 48.4	▲ 15.5	▲ 37.0	▲ 50.9	▲ 13.9	▲ 42.1	▲ 49.4	▲ 7.3
資金繰り	▲ 26.4	▲ 39.9	▲ 13.5	▲ 28.9	▲ 40.1	▲ 11.2	▲ 34.1	▲ 37.6	▲ 3.5
業況	▲ 21.9	▲ 42.4	▲ 20.5	▲ 22.9	▲ 38.5	▲ 15.6	▲ 27.5	▲ 39.3	▲ 11.8

業種	小売業			サービス業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
売上額	▲ 8.5	▲ 30.4	▲ 21.9	▲ 5.6	▲ 44.6	▲ 39.0
採算	▲ 28.8	▲ 44.0	▲ 15.2	▲ 23.4	▲ 49.4	▲ 26.0
資金繰り	▲ 23.0	▲ 36.9	▲ 13.9	▲ 19.7	▲ 45.1	▲ 25.4
業況	▲ 19.9	▲ 40.2	▲ 20.3	▲ 17.1	▲ 51.6	▲ 34.5

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

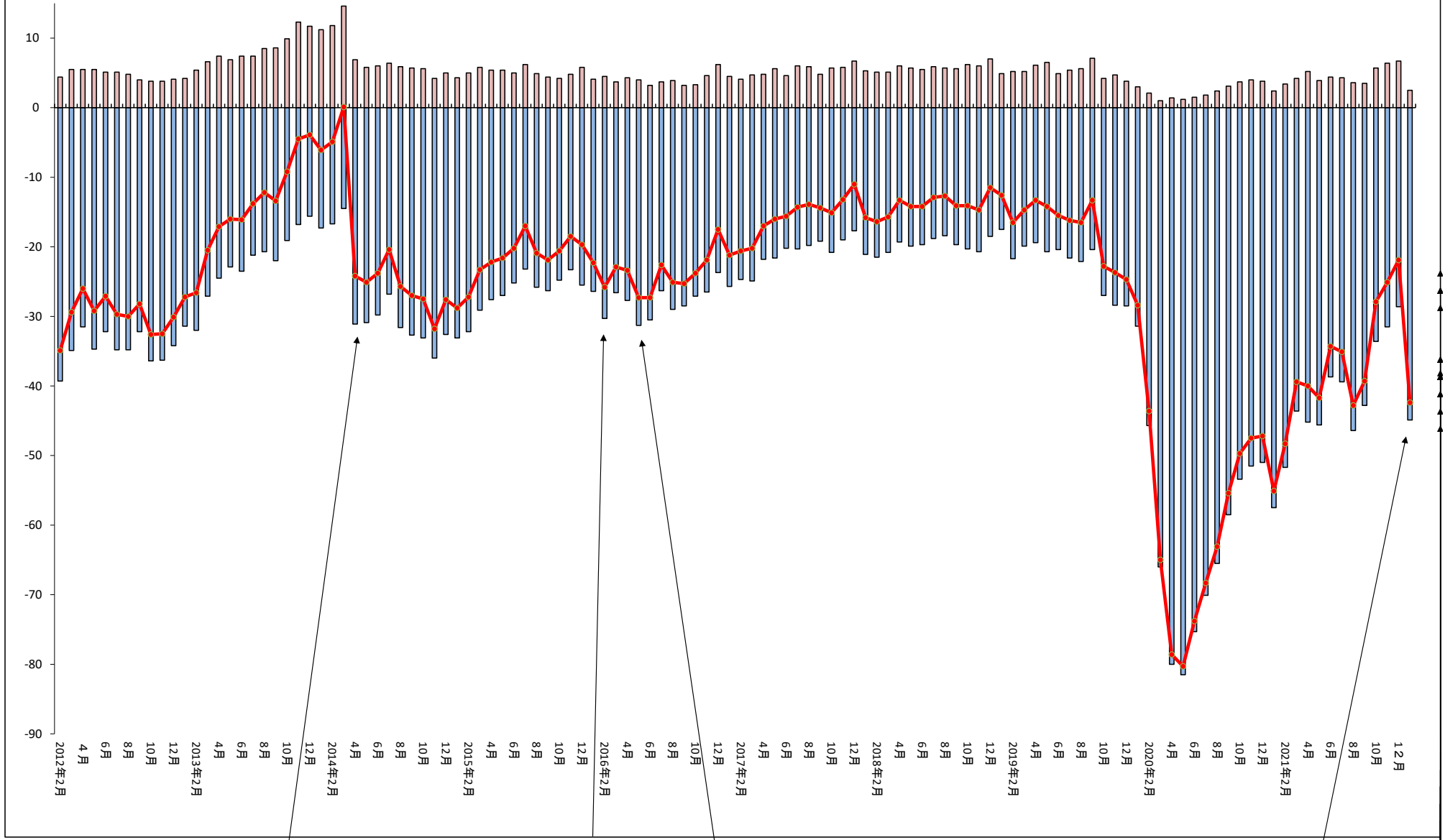
全国商工会連合会 政策推進部 事業環境課

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館19F TEL:03-6268-0085 FAX:03-6268-0997 担当:樋口

小規模企業景気動向調査(月次)

産業全体の業況…過去10年のトレンド…

■ 悪化
■ 好転
● DI



14年4月
消費税率8%に引上げ
(-24.2)

16年2月16日
日銀マイナス金利導入
(-25.8)

16年4月
熊本地震(-23.4)

22年1月
(-42.4)

小規模企業景気動向調査(1月期)における商工会経営指導員の主なコメント

*コメントについては、経営指導員回答の原文を掲載。

1. 景気全般

<改善傾向を示すコメント>

全体的に好況だという回答が多かったが、第6波の影響を警戒している業種も多かった。

(太子町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

全体的に、コロナ感染症の影響により、中小、小規模事業者にとっては、死活問題になっています。

(長浜市商工会)

酒類提供を中心とした飲食業は相変わらず低迷。そのため、酒類の小売り額も減少しており共に厳しいが、他の業種は比較的プラスないし現状維持で推移。全般的にはポジティブであるが、1月初旬からの感染拡大により全般的に厳しくなる予想。

(小平町商工会)

コロナの第6波の影響により1月の三連休を境に影響が多く出ている。特に飲食店は昨年第5波以上に影響が大きく売上の減少が見込まれる。加えて原油、食品の価格高騰により売価の値上げをせざるを得ない状況になっております。景気の低迷が予測される。

(玉造商工会)

新型コロナの影響については全業種とも昨年同様であったが、原油高騰による新たな問題が全業種とも大きな問題であり先行きが懸念される状況にある。また、個人収入が不安定で大きく減少しており買い控えが続き今後においても厳しい環境が予想される。調査の結果では不変が多数を占めたが今後においては、収入減少や不安定が重大な問題となる可能性がある。

(会津美里町商工会)

新型ウイルスで売上が減少している中、資材等価格の上昇や物資の確保難は経営の悪化度合いを高め、大変苦しい状況が続いている。一方で家庭内需要等のオンライン消費は増加傾向にあるので、今後新型ウイルスが終息へ向かい、旅行やレジャー関連の需要が戻れば、オンライン消費との相乗効果に期待したいところである。

(寺泊町商工会)

全体的にコロナ感染者増加に伴いあらゆる面(売上・仕入・経費等)で悪影響がで始めている状況。特にお客様を相手に商売している業者については、大打撃を受けている状況。売上が減少し販売商品をあげても仕入額が上昇すれば利益は減りさらに顧客離れも起きる可能性が高い。まさに悪循環に陥っている。このままでは耐久できる資金がなく、廃業する事業者も増加する恐れもある。さらなる国の支援も求めている状況。

(北杜市商工会)

小売業やサービス業などの川下産業については、月の月上旬は新型コロナウイルス感染症の拡大が収まっていたため客足が例年に近いレベルまで戻ったものの、月の中旬～下旬にかけてオミクロン株の感染拡大により、再度顧客離れが発生している。これにより、川上産業においても受注減が起きている。また、原油価格高騰による仕入単価の上昇、半導体不足による納期遅れなどもネガティブな影響を与えている。

(本巣市商工会)

令和4年1月期においては、新型コロナウイルス感染症の感染者数が大きく増加し、当地域においても連日感染者が出ている状況であり、昨年と比較して同様または悪化しており、景気全般についても、今後悪化していくことが懸念されている。外出を控えることに慣れてしまっている人が多くなっている中での感染者数増加であり、より一層外出を自粛する人が増加していくと思われる。事業復活支援金などの支援策が事業継続に必要なものであるとの声もあった。

(あさぎり町商工会)

2. 製造業

<改善傾向を示すコメント>

製造業では、依然として、材料の確保が困難な状況にあり、仕事はあるが、引き渡せないことにより、売上が減少している。ただし、材料の確保ができれば、売上が上がる状況にあり、仕事自体は、ある状況である。

(南陽市商工会)

繊維工業は昨年比ほぼ横ばいであるが、昨年1月がかなり低調だったため、相変わらず厳しい状況が続いている。機械金属製造業は建材金具は変わらず低調に推移。その他各種業界からは引き合いは増加しており、総じて今後の売上回復が見込まれる。資材価格の上昇に歯止めがかからず利益が出ない状況で価格転嫁が進まない。

(小矢部市商工会 津沢支所)

食料品：県連主催のテストマーケティングは好調に販売できている。原材料高騰しているが、コロナ禍での価格転嫁は厳しい様子。繊維工業：1月に着物に柄を印刷できるデジタルプリンターを導入。2月から本格稼働を行いたい。この導入により、外注に出す必要がなくなり自社での生産が可能となった。このような取り組みから少しずつ粗利益の確保を行っていきたい。コロナでの受注減少を埋める新たなサービスとして推進していきたい。機械金属：1月は毎年売上状況が厳しい月である。仕入単価の上昇については、数か月前に見積書を取得していた導入設備の単価が、1月に取り直したところ、増額されているなど実感している。

(みまさか商工会)

製造業において食品製造業は通販向けの需要は伸びている一方で、飲食店向けの需要はコロナまん延防止などの休業や時短に伴い、減少傾向にある。機械金属製造業は、半導体の入手が困難なケースあがる自動車関連の製造は設備投資そして、関連部品の調達に時間を要するため伸び悩む傾向にある。しかしながた、全般的には、製造業は回復基調にあると考える。

(呉広域商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

食料品…県内でもコロナ感染が拡大しているが、今のところ売上に影響はなく、前年同様に推移している。原材料は高止まりが続いているが価格転嫁するまでには至っていないことから、状況を見極めて検討したい。繊維工業…春先に向けて受注量が増加しているため取引数は同等でも売上は増加傾向。しかし、昨年頃から続く綿花高騰に加え、燃料費増加影響による染色加工の値上がりで生地値が高くなってきており、今後も原価高騰は続くと思われる。機械・金属…半導体関連事業の下請けは受注が安定しており今後も見通しは明るい。大量生産が基本の事業所にとっては原材料費や燃料費高騰が利益伸び悩み要因となっている。

(由利本荘市商工会)

前年比で受注案件にそれほど変化はないが、まん延防止措置に伴い、従業員への休暇取得を促している。思うように工場が稼働できない状況が続いた企業が多い。一方、従業員の高齢化に伴う退職と人材確保難により、仕事を受けられずに機会ロスとなる企業もあった。

(茂木町商工会)

食料品製造業について、新型コロナウイルス感染拡大の第五波が終息し、業界全体が上向き始めたところ、急激な第六波が押し寄せ、需要が冷え込む結果となった。学校等公共機関の閉鎖も相次ぎ、給食関連の受注も完全にストップしている。

(畑野商工会)

<食料品>オミクロン株の感染拡大により、時短ないし休業する飲食店が再度増え始めており、需要が安定しない。燃料高等の影響により、原材料の高騰も当面続くものと思われ、先行きは見通せない。<繊維工業>コロナ禍で大きく減った反動もあり、一定の需要がある。特に昨年度はマスク需要を反映して不織布のニーズが高かったが、今年はルームウェアやアウトドアマーケットの拡大が期待される。<機械・金属>昨年からの引き続き、原材料等の確保難が最大の課題となっている。また脱炭素によって受注の先細りやコストアップを危惧する事業者も少なくなく、減速傾向が強まっている。

(射水市商工会)

一時感染が減少したが年始の経済活動開始と共に感染者が増加し中旬には近隣県にまん防が発令され一気に需要が低下し売上が激減。仕入原価や光熱・燃料費等は昨年より引き続き上昇傾向にあるが、今月に入り原材料のみならず加工品などにも値上げが見られ更なる採算悪化となっている。これらの市況から持ち直すかと思われていた受注案件などもキャンセルや見直し、また延期など不透明な状況となり非常に厳しい状況である。ただ繊維業に関しては受注が伸びている業種もある。

(北杜市商工会)

飲食料品製造関連では、外食需要の落ち込みと原材料価格の上昇により、業績が悪化傾向にある。機械製造関連では、大手自動車メーカーの減産や稼働停止と原材料価格や原油など燃料価格の上昇が、収益悪化を招いており、利益率を下げているところも多い。

(川西市商工会)

3. 建設業

<改善傾向を示すコメント>

建築は町新築助成金の最終年度に当たり駆け込み受注により増加。土木、除雪請負関係は12月後半の大雪により例年並みに推移した。

(小平町商工会)

建設業は仕事量的には例年と大きな差はなく。資材の高騰や遅れも少し回復の兆しを見せている。これまでほとんど支援金の対象にならなかった建設業だが、事業復活支援金の対象になる企業は多く、期待の声が挙がっている。

(中央市商工会)

建設業関連の事業者は、木材価格や鉄材などの仕入価格は上昇しているものの、売上額が引き続き増加傾向にあり採算は好転傾向にある。また全体的に繁忙傾向にある中で人員確保には苦慮しており、従業員の待遇改善や取引先との連携、生産性向上などを模索し、効率的な事業運営の検討・実施が必要な状況。

(米子日吉津商工会)

災害関連需要を含め、ゼネコン系の会社、土木系の会社ともに景況感の良い。また、建築においてもリフォーム需要など堅調で、ガラスサッシの販売なども順調である。

(呉広域商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

昨年度は新型コロナ感染拡大により需要が大きく下がるなど大きく売上減少していた為、それと比較すると売上は上がっているが、例年と比較すると売上は低調である。木材等の原材料も週ごとに価格が上がっており、住宅備品等はコロナや半導体不足により入荷が遅れている状況である。

(北塩原村商工会)

建設資材の価格高騰、入手難により、着工・施工が遅れている。新型コロナウイルスの感染の急拡大が消費者の住宅購入意欲の低下などにより住宅需要の回復が見込めない。また、景気が一段と冷え込むことが予測されるので、雇用・所得環境の悪化が長引き、住宅着工やリフォーム受注も減少していくことが見込まれる。

(足尾町商工会)

建設資材の価格高騰、入手難により、着工・施工が遅れている。新型コロナウイルスの感染の急拡大が消費者の住宅購入意欲の低下などにより住宅需要の回復が見込めない。また、景気が一段と冷え込むことが予測されるので、雇用・所得環境の悪化が長引き、住宅着工やリフォーム受注も減少していくことが見込まれる。

(足尾町商工会)

材料の納期は遅れてきている状況。一時期は少し回復したものの、オミクロン株の影響により悪化し始めている。また、材料高騰や材料不足により設備・電気関係もかなり納期がかかり工期に影響を及ぼしている状況。このままでは、事業継続にも関わる問題に発展しかねない。

(北杜市商工会)

木材、金属部材の仕入れ価格高騰と品薄が続いている。見積有効期限を1カ月間としているところもあった。建売住宅などの上棟は途切れずあるが、世界的な電子部品供給量減少の影響で、資材が揃わず完成引き渡しができない現場もある。

(浅羽町商工会)

設備工事業では、家庭用の給湯器やウォシュレットの品薄状態が続き入荷の目途も立たないため、対応に苦慮している。現状、可能な範囲での修理や代替設備の移設等で臨時的な対応を行っているが、消費者の生活に直結する部分であるため、根本的な解決には至っていない。

(岡山北商工会)

4. 小売業

<改善傾向を示すコメント>

外出自粛を懸念して、食料品の買いだめなどにより売上が増加、巣籠に備えた家計消費が増加

(本吉唐桑商工会)

衣料品小売りは感染拡大の影響を多少うけるも、昨年並みの動き。食料品小売りは、前年1月対比で微増であるが、一部商品で仕入価格上昇。

(富山市八尾山田商工会)

しばらく暖冬の都市が続いたが、今冬は寒波の影響で冬物衣料の売上が回復している。

(姫路市商工会)

新型コロナ感染症拡大により、飲食店の利用が減少し、スーパー等食料品小売業の利用が増えている。令和3年11月～令和4年1月末日まで実施した苓北町行政主催の40%プレミアム付わくわく商品券事業(2940万円)の内、約90%が、食料品を中心とした小売業での購買となっっている。今後も、食料品店・ガソリンスタンド・コンビニ等の小売業の利用は堅実に推移していくものと思われる。

(苓北町商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

衣料品関連の事業者は新型コロナウイルス感染症の影響が見受けられる。食料品小売業関連の事業者は新型コロナウイルス感染症の影響もあるものの一部仕入れ単価の値上がりにより、今後に影響が出るのではと不安視する。耐久消費財関連の事業者は新型コロナウイルス感染症の影響もあるものの前年同月対比では大きな変化は見受けられませんでした。

(新ひだか町商工会)

コロナ感染が爆発的に増加したことにより、まん延防止等重点措置が発令されたことも影響し、飲食店は、時短営業・酒類提供の停止などにより、売上は減少傾向にある。ランチのみの営業店舗は、コロナ禍の影響はあまり受けていなかったが、今回は来店客が減り売り上げは減少している。衣料品小売業は、依然として買い控えが続いている。食料品小売業は、外食を控え巣籠り需要が増え、徐々に売上は回復傾向にある。

(檜葉町商工会)

食品販売で特に仕出し・弁当等販売をメインに行っている事業者はコロナの影響で分散勤務やテレワークなどが増えているため、1か所に勤務する人数が減少、仕出しや宴会なども自粛のため売上が減少している。回復の兆しが見えておらず今後も厳しい状況が続く。

(松阪北部商工会)

自動車関連では新車の製造が滞っていることにより、中古車市場が活発だが値段が高騰しており、購買需要が停滞。燃料販売については外出自粛の影響も続いており、個人向けの消費が非常に減少している。事業所向けは比較的安定しているが、原油価格の高騰により、売上高は上がるが、利益確保が難しい状況が続いている。

(丹波市商工会)

・販売は前年同期並み。仕入れは原料高騰の影響が出ており、今後、値上がりが避けられない状況にある。・積雪とコロナ感染拡大による来店減少が心配されたが、数字を見ると前年並みで推移した。・新車の納品が遅れている状況が続いており、特に人気車の納品はいつになるかわからない。そのため、中古車の購入が増えてきており、その価格も以前より高騰している。中古車においても人気車はなかなか手に入らない状況にある。

(中部商工会産業支援センター)

ガソリンスタンドでは、1月下旬の値上げ緩和策により仕入価格高騰に歯止めがかかったものの、大手安売リチェーン店による一斉値上げが影響し、自社では値上げを一切していても給油ニーズに歯止めがかかっている現状がある。小売価格上昇により自動的に売上は上がるが、販売量と利益率で言えば大幅な減少となっているにも関わらず、各種支援策も活用できない状況に苦しんでいる。

(神崎市商工会)

5. サービス業

<改善傾向を示すコメント>

まん延防止等重点措置が発出されるまでは、昨年と比べて好調だった。

(鎌ヶ谷市商工会)

当地の宿泊施設は観光客よりもビジネス客が多いためそれほど影響はない。理美容業は堅調に伸びている。

(香取市商工会)

観光客増加により、宿泊予約が回復しているが、第6波の影響が今後できそうである。

(太子町商工会)

対馬市において、新型コロナウイルス感染症感染拡大本格化の直前に成人式が1年ぶりに開催となり、美容室も着付け対応等で忙しかったようである。

(対馬市商工会)

<悪化傾向を示すコメント>

旅館業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、県のおでかけキャンペーンが一時停止になるなど売上が大幅に減少。また、サービス業共通として原油高騰により2倍の経費が掛かるなど深刻な状況にあり、今後も予断を許さない状況である。

(青森市浪岡商工会)

旅館関連の事業者は、1月前半は好調に推移したが、感染状況に比例し飲食のキャンセルが相次ぎ伸び悩んだ。洗濯関連の事業者は、受注減少により、30%程度売上は下がっており、材料費も高くなってきているため、利益が悪化している。理・美容関連の事業所は、家にいる時間が長く、自分用に購入する方が増えたため、店で取り扱っているケア用品などが売れるようになった。しかし、管内でコロナ陽性者が出てから、予約が埋まらなくなるなどの影響が出ている。

(かづの商工会)

旅館・宿泊業は、元々復興需要が減少しているため、作業員数自体が減少しているので、厳しい状況にあった。更に他県からの出張や観光もコロナ禍の影響でやや減少している。理美容業は、来店頻度を抑えるなどの影響が出ている。洗濯業は、仕入れ値が高騰しているので、値上げせざるを得ない状況である。

(檜葉町商工会)

1月になりまん延防止法が適用され、県外からの来客が大きく減少している。昨期もコロナの影響で大きく落ち込んでいたが引き続き今期も厳しい状況。飲食店では年末に持ち直していた宴会需要も1月になりキャンセルが続く、まん延防止法の適用以後はお酒の提供ができないため夜は休業してしまう店舗も多い。

(佐久市望月商工会)

宿泊関連は、雪の影響と感染拡大による影響で戻りつつあった客足もキャンセル等が増え、厳しい状況になりつつある。理美容関連は、来店客はコロナ禍前ほどに戻りつつあり好調だが、仕入価格の高騰等から採算は不変。今後の影響次第では悪化傾向も視野に入る状況。飲食関連は再び感染拡大しまん延防止になって以降、ランチタイム以外の客足は大幅に減少。昼時に集客するほかない状況。また、仕入価格も高騰しており、採算も悪化している。

(養老町商工会)

旅館業においては12月はコロナ前までのところまで戻りつつあったものの、佐賀県のまん延防止等重点措置をうけてキャンセルが相次いでいる模様。Goto再開を強く願っているものの再度先行き不透明な状況が続いていることで落胆している事業者も多いと思われる。オミクロンの重篤化率が少ないことから経済活動再開と望む声が聞こえはじめている。

(嬉野市商工会)

サービス業全般において、1月上旬から中旬までは売上は順調に推移していたが、中旬以降、新型コロナの感染再拡大及び「まん延防止等重点措置」の適用により、飲食・宿泊業においては大幅に来店者が減少し売上減少に転じた。

(松浦市福鷹商工会)